

【総領事館からのお知らせ:安全対策情報:5月】

平成23年5月13日(総11第17号)
在デンパサール日本国総領事館

1 治安情勢

- (1) 2010年にインドネシアでは177件の偽造紙幣事件が発生しており、うちバリ州では13件であった。また、バリ州では2005年に1,800枚の偽造紙幣が発見されたが、2010年には2,800枚に増加している。
- (2) 4月21日、クルクン県では若者グループが火炎瓶を投げ合うなどの騒ぎが生じた。警察によれば、この騒ぎはグループ間の抗争が原因であり、地元の慣習や宗教の影響はないと見られる。
- (3) 4月21日にジャワ島バンテン州スルポンのキリスト大聖堂で爆弾が発見されたことから、バリ州においても、検問が強化されるなど国軍や警察等の治安機関が警備体勢を強化している。28日、バリ州警察は爆弾を製造するために必要な化学製品を販売している店舗を抜き打ち検査したが、特段の問題は見つかっていない。また、30日、バリ州警察はクタ地区レギャン通りで発見された持ち主不明のカバンを捜索したが、爆発物などは発見されなかった。
- (4) 5月1日、米軍部隊がパキスタンにてウサマ・ビン・ラディン(2001年9月11日の米同時テロ事件の首謀者)を殺害したことに伴い、報復テロの可能性もあることから、バリ州警察はバリ島における警戒を強化した。

2 一般情勢

- (1) バリ州保健局によれば、2008年11月にバリ島で狂犬病ウイルスが発見されて以来、2008年に4人、2009年に28人、2010年に82人が狂犬病(疑い例を含む)で死亡した。なお、2011年は狂犬病撲滅対策により2010年よりも減少傾向になることが期待されている。
- (2) 4月12日、バリ州公共事業局によれば、バリ島の渋滞発生地点の1つであるデウィ・ルチ・ロータリーに、2011年8月から2013年4月を目処に地下道(長さ450m×幅9.3m)を建設する計画があり、そのために土地収用を始める模様。
- (3) 4月19日、バリ州知事は、バリ州地域整備計画令(RTRWP)を執行する際には住民の意見も十分に尊重した上で、違反行為には厳重に対処することを明らかにした。
- (4) 4月23日と24日、闘争民主党タバナン支部の党員約100名は、彼らの支持する党員代表が同支部役員名簿に掲載されていないとして、2日間にわたり同支部前でデモを行った。
- (5) 5月1日、バリ州環境局はクタやサヌールなど13の海岸で処理されない汚水が海に捨てられていると明らかにした。バリ州知事は汚水を垂れ流しにしているホテルやレストランなどに対して厳正に対処する旨述べている。

3 邦人事故・事件関連

- (1) 4月28日、バリ島へ5.8キロの麻薬を密輸しようとした邦人男性に対して、デンパサール地裁は18年の禁錮刑及び50億ルピアの罰金を内容とする判決を下した。
- (2) 飲酒運転が見受けられるが、インドネシアの法律でも飲酒運転は違法となっている。3ヶ月以下の禁固刑あるいは750,000ルピア以下の罰金となる。運転中の携帯電話利用等も同様の罰則が適用される。

以上